

サンゴの育つ温帯の海 —足摺宇和海国立公園における海洋生物多様性の 解明とその保全および普及活動

活動地域  高知県、愛媛県

つづける助成

3年目

調査研究

Web図鑑掲載数 **142種**

オニヒトデの駆除数 **73個体**

今年度計画の達成度 **90%**

全体計画の達成度 **90%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

本年度も昨年度に続き、新型コロナウイルス拡大の影響があり、様々なイベントや勉強会の開催が中止に追い込まれた。

■工夫した点

少人数での自然学習会、自然観察会を実施。SNSや動画配信を活用し、活動や生物を紹介したWeb図鑑を発信。ネットワーク構築の促進。



イベント「電串海さんぽ」での講演会の様子

課題

足摺宇和海の生物多様性の根幹を成すサンゴ群集は食害生物により甚大な影響を受けている。また、地域の人々が資源の価値を理解しづらく直接的に関わる機会が不足している。

目標

足摺宇和海の特色と環境変動の影響を受けやすいサンゴ群集と海洋生物多様性の理解を深める。また、資源を継続的に利用するための保全活動を進め、その魅力を広く普及する。

活動内容と成果

- 足摺宇和海におけるサンゴ群集の生物多様性把握のため活動を実施し、400種の生物を確認
- 本研究所のホームページのWeb図鑑「黒潮の生き物たち」に142種を掲載
- サンゴ群集のモニタリングを宿毛市沖の島、大月町周辺海域、土佐清水市電串で計5地点で実施し、全地点でオニヒトデの食害を確認。特に多くの食害が確認された大月町周辺海域と電串で駆除を実施し、計73個体を駆除
- Web図鑑の閲覧者数は約9,000人に到達。各記事の訪問者数は最大で4,903回。Web図鑑の執筆者として外部研究者5人を招聘



サンゴ群集のモニタリング作業の様子

全助成期間の活動を振り返って

上位目標を達成するため、足摺宇和海における生物多様性の基礎的知見の解明、サンゴ食害生物の駆除、プラットフォームの構築を進めた。その結果、生物相を明らかにするとともに、学術的に貴重な知見（新種や日本初記録種の発見）を得ることができた。また、オニヒトデの駆除数は年々減少し、駆除効果が表れてきたと感じた。さらにプラットフォームの構築を進め、足摺宇和海を全国に発信するための協力体制を強固にできた。



2022年に発見した新種のオトヒメクラゲ

〒788-0333
高知県幡多郡大月町西泊560-1
電話：0880-62-7077
E-mail：mail@kuroshio.or.jp
HP：http://kuroshio.holy.jp/



今後の展望

今後も足摺宇和海の生物多様性をより正確に把握するため、重点的な調査を進める。また、サンゴ群集のモニタリングや食害生物の駆除を継続する。さらに講演会や観察会を実施し、足摺宇和海や生物多様性に関する意識を向上させる。本活動で得られた経験をもとに活動の幅を広げ、四国沿岸における気候変動による沿岸生態系の変化に対する備え、各地域での課題の解決策となる適応アクションプランにつなげていきたい。